

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験	担当氏名	時間数
				職種		
老年看護学概論Ⅰ (対象の理解)	1	1	後期	看護師	副校長	15
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)		
○該当する・該当しない				講義形式(80)% ・ 実習など講義形式以外(20)%		
評価方法	筆記試験, 学修意欲, レポート			教科書・参考資料	老年看護学 / 医学書院	
概要	老年看護の対象となる人々の生理的、心理的、社会的特徴及び老年看護の特質について理解する。					
目標	1. 高齢者を身体的・心理的・社会的側面から理解できる 2. 加齢に伴う健康問題を理解できる 3. 高齢者のQOLと看護の役割を理解できる					
回数	授業内容・計画					
1	1章 老いるということ、老いを生きるということ		A 老年看護を学ぶ入り口			
2			B 「老いる」ということ ①加齢と老化 ②加齢に伴う身体的側面の変化 ③加齢に伴う心理的側面の変化 ④加齢に伴う社会的側面の変化 C 老いを生きるということ ①高齢者の定義 ②-1老年期の発達課題			
3～6	4章 高齢者のヘルスアセスメント		B 身体に加齢変化とアセスメント ①皮膚とその付属器 ②視聴覚とその他の感覚 ③循環器 ⑥呼吸器 ⑦消化器系 ⑧代謝系 ⑨泌尿生殖器系 ⑩運動器			
7	高齢者体験学習		加齢による変化を理解し実際に高齢者体験をする レポートで振り返り提出			
8	終講試験					
留意事項						

[illegible]

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験	担当氏名	時間数
				職種		
老年看護学援助論Ⅰ (高齢者と家族、老年看護の基本技術)	1	2	前期	看護師	専任教員	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)		
○該当する・該当しない				講義形式(100)%・実習など講義形式以外()%		
評価方法	筆記試験, 学修意欲, レポート			教科書・参考資料	老年看護学 /医学書院	
概要	高齢者に多い疾病の発病・回復過程を理解し、老年期にある人と共に生きる家族の健康生活サポート・システムを知り、更なる健康生活を目指した実現可能なサポートシステムの構築を考える力を養い、専門職者としての看護倫理を踏まえた老年看護を实践できる能力を養う。ライフステージの最後の「死」についても考える。					
目標	1. 高齢者におこる身体・心理・社会的変化を基本に、援助技術を考えることができる 2. 高齢者の認識している世界と援助者の認識している世界が一致しないことが多いことが理解できる					
回数	授業内容・計画					
1	5章 高齢者の生活を整える看護		A 日常生活を支える基本的活動			
2			①基本動作と環境のアセスメント			
3			②転倒やその他の事故のアセスメントと看護			
4			③フレイルと廃用症候群のアセスメントと看護			
5			B 食事・食生活			
6			①食事・食生活の意義 ②高齢者に特徴的な変調			
7			③食生活のアセスメント ④食事・食生活の支援			
8			C 排泄			
9			①排泄援助の基本 ②排泄のアセスメント			
10			③高齢者に起こりやすい下部尿路症状とケア			
11			④高齢者に起こりやすい排便機能障害による症状とケア			
12			G セクシュアリティ			
13			①高齢者におけるセクシュアリティの意味			
14			②高齢者ケアの場における性に関する問題			
15			③セクシュアリティのアセスメントと看護			
			E 生活リズム			
			①高齢者と生活リズム ②高齢者に特徴的な生活リズムの変調			
			③高齢者の生活リズムのアセスメント ④高齢者の生活リズムを整える看護			
			F コミュニケーション			
	終章 高齢者の在宅医療と エンドオブライフケア		A エンドオブライフケアの概念			
			B エンドオブライフケアの構成要素			
			C エンドオブライフケアの場			
	終講試験					
留意事項						

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験	担当氏名	時間数
				職種		
老年看護学援助論Ⅱ (主な疾患と看護)	1	2	後期	看護師	慈風会職員 3名	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)		
○該当する・該当しない				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%		
評価方法	筆記試験, 学修意欲, レポート			教科書・ 参考資料	老年看護学 /医学書院	
概要	高齢者の在宅・医療・保健・福祉施設など各種ケア場面のあらゆる健康状態にある高齢者を全人的に理解し、対象の心身の状態、生活体験や生活背景、日常生活行動、環境からの健康上のニーズを総合的にアセスメントできる能力を養う。高齢者特有の症状の現れ方や罹患しやすい疾患とフィジカルアセスメント、及びQOLを高めるアセスメントを理解する。					
目標	1. 看護の展開を行う上での高齢者の特徴が理解できる 2. 高齢者の入院、検査、治療、退院における援助を理解できる 3. 高齢者の主な疾患と看護について理解できる					
回数	授業内容・計画					
1	看護師:14時間(終講試験2時間含む) 4章 高齢者のヘルスアセスメント			A ヘルスアセスメントの基本 B 身体に加齢変化とアセスメント ①皮膚とその付属器 ②視聴覚とその他の感覚 ③循環器 ⑥呼吸器 ⑦消化器系 ⑧代謝系 ⑨泌尿生殖器系		
2～4	6章 健康逸脱からの回復を促す看護			B 症候のアセスメントと看護 ①発熱 ②痛み ③掻痒 ④脱水 ⑤嘔吐 ⑥浮腫 ⑦倦怠感		
5				C 身体疾患のある高齢者の看護		
6				①脳卒中 ②心不全 ④慢性閉塞性肺疾患 ⑦肺炎		
7	7章 治療を必要とする高齢者の看護					
8・9	看護師:12時間 4章 高齢者のヘルスアセスメント			B 身体に加齢変化とアセスメント ⑪運動器		
10	6章 健康逸脱からの回復を促す看護			C 身体疾患のある高齢者の看護 ⑤パーキンソン病・パーキンソン症候群 ⑨骨粗鬆症 ⑪骨折		
11				D 認知機能障害のある高齢者の看護		
12	9章 生活・療養の場における看護			①うつ ②せん妄 A 地域における高齢者への看護 B 保健医療福祉施設および居住施設における看護 C 高齢者を含む家族の看護 D 多職種連携実践による活動		
13・14	看護師:4時間 6章 健康逸脱からの回復を促す看護			D 認知機能障害のある高齢者の看護 ③認知症		
15	終講試験					
留意事項						